

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比 (%)
乗換案内事業	742,031	+26.4
マルチメディア事業	119,072	+205.5
その他	49,842	△5.5
合計	910,945	+34.2

- (注) 1 金額は、販売価格によっております。
2 金額には、消費税等は含まれておりません。
3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比 (%)	受注残高(千円)	前年同四半期比 (%)
乗換案内事業	133,342	+22.8	177,896	+60.7
マルチメディア事業	2,500	—	—	—
その他	25,950	+348.5	81,278	△5.8
合計	161,793	+41.5	259,175	+31.6

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。
3 受託開発以外の製品については見込生産を行っております。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比 (%)
乗換案内事業	953,854	+16.9
マルチメディア事業	121,255	+361.6
その他	58,351	△4.9
合計	1,133,462	+25.4

- (注) 1 金額には、消費税等は含まれおりません。
2 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結会計期間（平成22年1月1日～平成22年3月31日）におけるわが国経済は、企業収益に改善が見られるなど全体として持ち直しの動きが続いているものの、雇用情勢に厳しさが残るなど、景気は引き続き厳しい状況にあります。

情報通信業界におきましても、企業のソフトウェア投資は緩やかに減少しており、情報サービス業の売上高は前年同四半期（平成21年1月1日～平成21年3月31日）と比べ減少傾向にあるなど、今後のソフトウェア・情報サービス需要についても、先行きに不透明感が残る状況となっております。このような中、次世代ネットワーク（N G N）の拡大や次世代高速無線通信サービスの開始等、ユビキタス社会の実現に向けた動きが加速してまいりました。携帯電話につきましても、当第2四半期連結会計期間末（平成22年3月末）にはインターネット接続の契約数が9,300万件を超える等、インターネット端末として広く浸透しております。

当社グループにおきましても、インターネットでの更なる事業展開の基盤を確立してまいりました。携帯電話向けに提供いたしております「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」並びにスマートフォン向け「乗換案内」の検索回数は平成22年3月には月間1億4,000万回を超える等、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第2四半期連結会計期間における当社グループの売上高は1,133,462千円（前年同四半期比25.4%増）、営業利益は160,978千円（前年同四半期比9.8%減）、経常利益は161,836千円（前年同四半期比10.9%減）、四半期純利益は83,931千円（前年同四半期比8.0%減）という経営成績となりました。

売上高につきましては、主として、乗換案内事業セグメントにおける売上高が957,096千円（前年同四半期比17.3%増）と順調に推移したことに加え、マルチメディア事業における売上高が121,255千円（前年同四半期比361.6%増）と大きく増加したことにより、前年同四半期と比べ増加いたしました。また、営業利益につきましては、乗換案内事業セグメントにおいては前年同四半期と比べ増加しておりますが、マルチメディアセグメントにおいては営業損失の拡大となったため、営業利益全体としては前年同四半期と比べ減少いたしております。これにより経常利益、四半期純利益につきましても、減少いたします。

なお、当第2四半期連結会計期間は、前年同四半期に連結されていなかった株式会社エキスプレス・コンテンツバンクを連結の範囲に含めております。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

（乗換案内事業）

乗換案内事業は全体として、売上高・営業利益ともに順調な推移となりました。

携帯電話向けの事業につきましては、携帯電話向け有料サービスである「乗換案内NEXT」は順調に会員数が増加しており、前年同四半期末（平成21年3月末）には約58.5万人でしたが、当第2四半期連結会計期間末には約61.1万人となっております。また、当第2四半期連結会計期間において、新たにiPhone 3G・iPod touch向けの有料版アプリケーション「乗換案内Plus」の提供を開始しており、この売上を含めております。さらに、当第2四半期連結会計期間は、前年同四半期に連結されていなかった株式会社エキスプレス・コンテンツバンクを連結の範囲に含めており、「交通情報ア

クセス」等の売上を加えております。それらの結果、売上高は前年同四半期と比べ大きく増加しております。

広告につきましては、地域検索連動型広告等を積極的に展開しております。新たに子会社を連結の範囲に含めた影響を含め、売上高は前年同四半期と比べ増加しております。

「乗換案内」のパソコン向け製品につきましては、前年同四半期と比べ売上高がやや減少いたしております。これは主に、顧客との直接契約によるバージョンアップの販売及び店頭販売パッケージの売上が減少しているためであります。

「乗換案内イントラネット3PLUS」等の法人向け製品の売上高につきましては、前年同四半期と比べ増加しております。これは主に、近年開始したASPサービスの「ジョルダンクラウド」の売上が増加したことや、新たに子会社を連結の範囲に含めたことによるものであります。

旅行関連事業に関しましては、パソコン向けインターネット版「乗換案内」、並びに携帯電話向け「乗換案内NEXT」及び無料版「乗換案内」の利用者等に対して、旅行商品の販売を実施しております。レジャー施設等のクーポンの提供や、宿泊施設との直接契約の拡大、オンラインで完結するサービスの提供に向けた取組みに注力しており、全体として売上高は前年同四半期と比べ減少しております。

以上の結果、乗換案内事業全体としては売上高957,096千円（前年同四半期比17.3%増）、営業利益325,868千円（前年同四半期比21.4%増）となりました。

(マルチメディア事業)

マルチメディア事業では、従来から携帯電話向けゲーム「ハムスター倶楽部」等の提供を行っております。また、家庭用ゲームソフトの開発・販売も行っております。

出版につきましては、総合オピニオン誌『表現者』を発行しているほか、「ジョルダンブックス」として書籍を発売しております。当第2四半期連結会計期間においては、新たに『保守誕生 日本を陥没から救え』を刊行しております。

当第2四半期連結会計期間は、前年同四半期に連結されていなかった株式会社エキスプレス・コンテンツバンクを連結の範囲に含めており、「アクセスBOOKS」や第1四半期連結会計期間にサービスを開始した「つかえるえもし」等の売上を加えております。

それらの結果、全体として売上高は大きく増加しておりますが、当第2四半期連結会計期間においては利益の獲得には至っておらず、営業損失が発生しております。

以上の結果、売上高121,255千円（前年同四半期比361.6%増）、営業損失97,441千円（前年同四半期は33,647千円の損失）となりました。

(その他)

受託ソフトウェア開発及び情報関連機器リース等につきましては、ソフトウェア開発の受注及び売上が減少している影響で、前年同四半期と比べた売上高はやや減少しておりますが、営業利益は増加しております。

以上の結果、売上高69,740千円（前年同四半期比0.1%減）、営業利益7,439千円（前年同四半期比51.6%増）となりました。

なお、上記の事業の種類別セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しております。また、営業利益は、配賦不能営業費用及び内部取引による営業費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成21年9月末）と比較しますと、資産は155,279千円増の3,682,789千円、負債は24,668千円増の841,122千円、純資産は130,611千円増の2,841,667千円となりました。

資産は、流動資産につきましては、123,574千円増の2,739,392千円となりました。これは、現金及び預金が43,186千円増の1,708,817千円、受取手形及び売掛金が73,343千円増の878,642千円、仕掛品が13,791千円増の40,362千円となったこと等の影響によるものであります。売掛金が増加しているのは、主に売上が増加傾向であることによるものであります。仕掛品が増加しているのは、主に開発途中の受託案件に関してソフトウェア開発が進行していることによるものであります。

固定資産につきましては、31,705千円増の943,396千円となりました。これは、有形固定資産が30,365千円増の235,543千円、無形固定資産が30,855千円減の359,707千円、及び投資その他の資産が32,195千円増の348,145千円となったことによるものであります。有形固定資産が増加しているのは、主にデータセンターの多重化や、法人向け「乗換案内」のASPサービスの利用増加等に対応したサーバー等の工具器具備品の購入によるものであります。無形固定資産が減少しているのは、主にのれんの償却により、のれんが38,395千円減の217,165千円となったことによるものであります。投資その他の資産が増加しているのは、主に投資有価証券が42,500千円増の118,940千円となったことによるものであります。投資有価証券が増加しているのは、その他有価証券を新たに取得したことによるものであります。

負債は、流動負債につきましては、31,666千円増の787,273千円となりました。これは、未払費用が30,199千円増の126,048千円となったこと等に加え、その他に含まれる未払金が増加した影響が、賞与引当金が17,728千円減の48,622千円、未払消費税等が16,842千円減の13,765千円となったこと等の影響を上回ったことによるものであります。未払費用が増加しているのは、主に広告宣伝費等が増加傾向にあることによるものであります。その他に含まれる未払金が増加しているのは、主に有形固定資産の取得に係る未払金の発生によるものであります。賞与引当金が減少しているのは、主に賞与の支給見込額の減少によるものであります。未払消費税等が減少しているのは、主に、当社については当期分より消費税等を毎月納付することになった影響によるものであります。

固定負債につきましては、6,998千円減の53,849千円となりました。これは主に、長期借入金の返済期限が近づき流動負債となしたことによるものであります。

純資産は、株主資本につきましては、127,006千円増の2,784,877千円となりました。これは、四半期純利益168,658千円が、剰余金の配当41,652千円を上回った影響で、利益剰余金が127,006千円増の2,247,011千円となったことによるものであります。

少数株主持分につきましては、3,605千円増の56,789千円となりました。これは主に、少数株主利益の発生に伴うものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における連結ベースの現金および現金同等物は、第1四半期連結会計期間末と比べ210,047千円増の1,369,729千円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは151,754千円の収入（前年同四半期比12.1%減）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、税金等調整前四半期純利益が20,277千円減の161,262千円、売上債権の増加額が15,450千円増の75,426千円、未払消費税等の減少額が8,797千円増の4,672千円、法人税等の支払額が7,061千円増の8,523千円となった影響が、前第2四半期連結累計期間にはなかったのれん償却額が19,197千円、仕入債務の増加額が18,401千円増の34,425千円となった影響を上回ったこと等であります。売上債権の増加額が増えた主要因は、売上が増加傾向にあることあります。のれん償却額については、前第2四半期連結会計期間末に株式会社エキスプレス・コンテンツバンクを連結したことにより発生しております。仕入債務の増加額が増えた主要因は、売上の増加に伴い債権も増加傾向にあることあります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは66,115千円の収入（前年同四半期は329,711千円の支出）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、定期預金の払戻による収入が100,963千円増の401,941千円となったこと、前第2四半期連結会計期間にあった連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出284,714千円が当第2四半期連結会計期間においては発生していないこと、敷金及び保証金の差入による支出が16,405千円減の1,000千円となったこと等であります。敷金及び保証金の差入による支出が減った主要因は、主に前第2四半期連結会計期間において業務拡大によるオフィス増床に伴う敷金の差入を行ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは7,982千円の支出（前年同四半期比14.8%増）となりました。前年同四半期と比べての変動の要因は、前第2四半期連結会計期間にはなかったリース債務の返済による支出が878千円となったこと等であります。なお、リース債務の返済による支出は、前第2四半期連結会計期間末に連結した子会社のものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は9,434千円であります。

事業の種類別セグメントの研究開発活動を示すと、乗換案内事業においては、主に、iPhone 3G・iPod touch向けの「乗換案内」、海外版の「乗換案内」及びジョルダンクラウドの新規サービスについて研究開発を行い、当第2四半期連結会計期間において、新たに、iPhone 3G・iPod touch向けの有料版アプリケーション「乗換案内Plus」の提供を開始いたしました。マルチメディア事業においても、家庭用ゲームソフトについて、社内に蓄積した技術・ノウハウを生かしつつ、インターネットとの連携を重視しながら新規タイトルの開発を行っております。また、携帯電話向けのニュース情報提供サイト「ジョルダンニュース！」について研究開発を進めております。